

PEACEBOAT SUJOSプロジェクト

ヒバクシャ地球一周 証言の航海

Global Voyage for a Nuclear-Free World PeaceBoat Hibakusha Project

ピースボート 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-13-1-B1 TEL03-3363-7561 FAX03-3363-7562

2015年8月4日

第8回「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」 プロジェクトの概要とその成果

●クルーズ 第87回ピースボート「地球一周の船旅」

●テーマ 「被爆70年—未来につなぐ」

●期間 2015年4月12日(日)~7月25日(土)横浜発着 計105日間

●寄港地数 23カ国 24寄港地 ●使用客船 オーシャンドリーム号

●参加被爆者 8名(内訳:広島被爆6名/長崎被爆2名)※参加被爆者は「非核特使」に委嘱

広島被爆:三宅信雄、小谷孝子、廣中正樹、堀江壯、伊藤正雄、鎌田弘恵 長崎被爆:森田博滿、三田村シズ子 (部分参加:鎌田弘恵 横浜~コペンハーゲン)

●参加ユース 3名 ※参加ユースは「ユース非核特使」に委嘱

橋本昭博(茨城出身)、鈴木慧南(神奈川出身)、岩本麻奈未(京都出身)

●専属記録担当 エマ・バゴット(英国出身) ●証言活動 19カ国 25都市にて実施

●後援 広島市/長崎市/平和首長会議/日本原水爆被害者団体協議会

公益財団法人広島平和文化センター/公益財団法人長崎平和推進協会

- ●プロジェクト通称 おりづるプロジェクト
- ●主な活動と成果
 - ①平和首長会議との提携のもと、世界各地で「過去と今の対話」プロジェクトを実施。
 - 平和首長会議加盟都市に寄港・訪問し、現地市長受け入れのもと、証言会を実施。被爆当時子どもだった被 爆者が、現地の子どもたちとその親、教師らが対面する場面も。国境や世代を超えたネットワークを築いた。
 - 世界11都市へ平和首長会議の原爆ポスターセット及び、広島市、長崎市両市長からのメッセージを届けた。サンタアポローニャ市(グアテマラ)1都市が平和首長会議に新規加盟した。
 - ②核兵器の非人道性を訴え、核兵器禁止条約の交渉開始を多くの政府に直接要請した。
 - ギリシャの大統領府を訪問しパヴロプロス大統領に面会。ギリシャ国会での三宅信雄氏の被爆証言及び演説は、ギリシャ国内で生中継された他、各国のメディアで報じられた。
 - 核保有国であるロシア(サンクトペテルブルグ)、アメリカ合衆国(ホノルル)、フランス(ゴンフルヴィール・ロールシェ)、インド(コーチン)にて市長や地元市民らに向けた被爆証言会を実施。市民活動の重要性を共有し、核廃絶への連帯を呼びかけた。
 - 冷戦下に米ソ首脳が核削減を議論したレイキャビクのホフディ・ハウスで証言会を実施。多くの国々で、核兵器禁止を求める「人道の誓約(オーストリアの誓約)」への賛同を、ヒバクシャ・ストーリーズのキャスリン・サリバン博士と協力して求めた。
 - ③世界中の戦争被害者と交流し、多角的な視点で戦争体験の継承の在り方について学んだ。
 - 第一次世界大戦中、世界で初めて大規模な毒ガス攻撃が行われたイーペル、欧州議会のあるブリュッセルを訪問。日本とヨーロッパの間で戦争体験の継承方法ついて議論を交わした。
 - 第二次世界大戦中に大空襲を経験したハンブルグを訪問。空襲の直接の被害者3名と交流し、若い世代への継承方法の在り方について、課題や展望など意見交換を行った。
 - ④様々な表現を用いた被爆体験の継承方法を実践。未来につなぐ架け橋を築いた。
 - 被爆者とユースが協力して被爆証言会を企画実践。船内参加者らとともに、詩、歌、演劇、朗読、パペット、クレイアニメーション、漫才等、多様な表現を用いて継承活動に取り組んだ。

●参加被爆者 略歴



三宅 信雄(ミヤケ・ノブオ)

広島被爆 1929年2月16日生まれ 被爆当時16歳 埼玉県志木市在住

爆心地より1.8km地点、爆心地へ向かう路面電車の中で被爆。電車内で多くの死傷者が出たが、自身は咄嗟の判断で電車を飛び降りたことにより被害を免れた。1980年代後半から証言活動を開始。活動は日本国内にとどまらず、アメリカやオランダ、カナダ、イスラエル、サウジアラビアなどでも証言し、在韓被爆者との交流なども積極的に参加。2007年から2009年には東京都原爆被害者団体協議会の事務局長を務める。



森田 博滿 (モリタ・ヒロミツ)

長崎被爆 1934年9月24日生まれ 被爆当時10歳 長崎県長崎市在住

爆心地より1.8km地点にある自宅の玄関先で被爆。外から家の中へ入った瞬間、 青白い光を感じ、爆風で5~6m吹き飛ばされた。自身は軽傷で難を逃れたが、5歳 上の兄は大やけどを負い数年後に死亡。戦後、差別を恐れ被爆体験を長く語らなか ったが、周囲から頼まれ次第に語るようになった。山王神社にある樹齢600年の被爆 クスノキの保護に携わりながら、「100分の1秒の奇跡」で助かった命の尊さを訴えて いる。



小谷 孝子(コタニ・タカコ)

広島被爆 1939年1月4日生まれ 被爆当時6歳 千葉県八千代市在住

爆心地より2.5km地点にある自宅にて被爆。家の下敷きになるも軽傷で助けられた。 4人兄弟のうち弟は全身火傷で死亡。姉、兄も大けがを負うが生き永らえる。自身が 小学生の時に母を白血病で亡くして以来、被爆者であることを公にしてこなかったが、 知人に背中を押され2005年より語り始める。現在は八千代市原爆被爆者の会に所 属し、幼稚園教諭時代から特技とする腹話術を用いながら若者に命の尊さを語り継 いでいる。



廣中 正樹(ヒロナカ・マサキ)

広島被爆 1939年10月16日生まれ 被爆当時5歳 広島県福山市在住

爆心地より3.5km地点にある小川で水遊びをしているときに被爆。逃げ込んだ防空壕で黒い雨を見る。原爆で亡くなった父の焼けた背中が忘れられず、定年後、父が亡くなるまでの出来事を書き出した小冊子を作成。2006年に絵を見せながら初めて自身の体験を語る。2010年、NPT再検討会議に日本被団協の代表団の一員としてニューヨークを訪れ、国連や現地の小中学校で被爆証言を通して核廃絶を訴えた。



堀江 壯(ホリエ・ソウ)

広島被爆 1940年10月17日生まれ 被爆当時4歳 広島県広島市在住

爆心地から3 km 地点の路上で被爆。強烈な閃光のあと襲って来た爆風により吹き飛ばされたが一緒にいた姉が咄嗟に自身に覆い被さり事なきを得た。自宅に避難して来た子どもたちが大火傷に苦しむ姿が脳裏に焼き付いている。2004年より世界へ被爆体験を発信し国際交流を行う団体「ワールドフレンドシップセンター」に所属。語り部の減少に危機感を覚え、2012年より海外からのゲストに英語で被爆体験を語る。



伊藤 正雄(イトウ・マサオ)

広島被爆 1941年1月31日生まれ 被爆当時4歳 広島県広島市在住

爆心地から3.5km地点の自宅前の道路で三輪車に乗って遊んでいるときに被爆。 爆風により吹き飛ばされるも軽傷ですみ、逃げ込んだ防空壕で黒い雨に遭う。被爆後 数日間、家の近くの公園で数え切れないほどの遺体を荼毘に付す様子が脳裏に焼き 付き、未だに忘れられない。2010年、ヒロシマピースボランティアとして活動を開始。 2012年から広島市の伝承者養成事業に参加し継承活動に尽力。



三田村 シズ子(ミタムラ・シズコ)

長崎被爆 1941年12月20日生まれ 被爆当時3歳 長崎県長崎市在住

爆心地から4km 地点の自宅にて食事中に被爆。鋭い光を浴びた直後、防空壕に避難し家族は無事。戦後は看護師として勤め、原爆に深い関心はなかったが、一緒に被爆した姉二人、被爆二世となる自身の娘・姪を含む4名ががんを発症し他界。自身も大腸癌、子宮体癌を患い、徐々に放射能の恐ろしさを感じ反核平和活動に関心を持ち始めた。現在は「平和案内人」や、紙芝居を通して被爆体験を伝える活動に従事。



鎌田 弘恵(カマダ・ヒロエ)

広島被爆 1942年2月9日生まれ 被爆当時3歳 広島県広島市在住

爆心地から2. 3km地点の自宅にて被爆。幸いにも家族は無事。被爆の鮮明な記憶はないが、その後長年にわたって死の恐怖が拭えなかった。幼少時から疲れやすく、40代の頃に甲状腺機能低下症と診断される。これまで証言活動の経験は少ないが、子や孫、海外からの 留学生などに、親族や自身の体験を語ってきた。原爆の放射線による被害、国内外の戦争、難民問題などにも関係づけながら核廃絶を訴えたい。

●参加ユース略歴



橋本 昭博 (ハシモト・アキヒロ)

茨城県ひたちなか市出身 東京都在住 現在29歳

演劇プロデュースユニット Moratorium Pants を主宰。全作品のプロデュース、演出、 出演を手掛けている。12歳の頃、戦災孤児と被爆者を描いた「わかくさのうた」に出 演をきっかけに、戦争経験者の手記や資料などを読み込み当時の状況を疑似体験。 その後も、戦災孤児や沖縄戦、原爆問題をテーマにした舞台に数多く出演している。 2013年夏、第二次世界大戦中の日本とアジアをテーマにシンガポールの劇団と共 同創作した作品「mobile 2」が、シンガポールでその年の舞台ベスト10の中に選ばれ る。学校などで演劇的手法を使ったワークショップを行うなど表現教育の現場でも活 動を展開。今回の航海では、演劇を通して継承の実践に取り組む。



鈴木 慧南 (スズキ・ケイナ)

神奈川県横浜市出身、在住 現在21歳

大学で核問題に取り組むサークルに所属し専門家や他団体と協力しながら学習会や被爆者の証言を語り継ぐためのイベントなど積極的に企画、実施している。8月には広島・長崎を訪問し、資料館や被爆遺構などを巡り原爆について学ぶほか、被爆証言の聞き取りなどにも取り組む。また、日本国内の若者に平和の問題をより身近に感じてもらうため「WHAT'S YOUR PEACE?」というプロジェクトに参加し、写真展を企画している。日々の活動で感じた今後の継承への危機感から、今回の航海は、国内の若者が核問題へ関心をもてるようなムーブメントをつくる他、海外の若者たちとの国境を越えたネットワークづくりを目的として参加を決意。



岩本 麻奈未 (イワモト・マナミ)

大阪府堺市出身 京都府在住 現在21歳

幼少の頃より戦争の問題に関心が高く、書籍や写真集などを通して世界情勢や戦争・紛争について学んできた。2010年、「高校展」(大阪府高等学校美術・工芸展)に戦時中の様子を語る祖母を描いた絵画を出展し最優秀賞を受賞。以来、戦争下の子どもの表情や戦争でPTSDに陥った人をテーマに絵画などを制作。2014年、"次世代の継承"をテーマに20代の若者ら約100名を巻き込んで映像作品を制作。広島・長崎の原子爆弾の惨禍を若者自らが証言するほか、BGM やアニメーションなどで被爆者の思いを表現した。今回の航海では、芸術というツールを活かしながら、幅広い世代が核や戦争の問題を考えるきっかけをつくりたい。

●寄港地での活動

4月21日 シンガポール

活動都市:シンガポール

発言者:廣中正樹さん(日系人協会/約6名)、三宅信雄さん、橋本昭博さん(証言会/約150名)

シンガポール国立博物館と旧フォード工場の訪問を通して日本軍の統治下におかれたシンガポールの歴史と当時の人々のおかれた状況を学んだ上で、シンガポール日本人会・史跡史料部にて被爆証言・意見交換を実施。国連シンガポールの協力で、高校生と教師、その親がピースボート船内の証言会に集まり、太平洋戦争下では加害と被害を経験した日本とシンガポールの両者がともに過去の戦争や歴史の継承と多角的に見て未来を作る方法を探った。8名の被爆者が「私があなたたちのころには、、、」と直接若者と対話をする機会となった。過去に太平洋戦争を主題にした、シンガポールとの共同演劇に出演したユース橋本さんがその経験を語り、劇の一部を再現。

4月27日 コーチン(インド)

活動都市:コーチン

発言者:小谷孝子さん、堀江 壯さん、岩本麻奈未さん(証言会/80名)、三田村シズ子さん、鈴木慧南さん、三宅信雄さん(証言会/100名)

コーチン市役所を訪問し、トニー・チャマニー市長と市役所職員、50名を越える学生に迎えられ、<u>平和首長会議加盟都市であるコーチン市の平和への尽力を学んだ。</u>また、ピースボートで日本から運んできた「平和の灯」を、広島市職員と共にコーチン市に贈呈。YMCAとシード・インドによる平和式典では、約100名の大学生が被爆証言に熱心に耳を傾け、約10名との積極的な質疑応答の時間を得た。

5月13日 ピレウス(ギリシャ)

活動都市:ピレウス、アテネ

発言者:三宅信雄さん(大統領挨拶、国会での証言会/100名)

プロコピス・パヴロプロス大統領に面会。今年(2015年)1月に政権を担うようになったチプラス新政権は核政策については消極的だが、大統領は「科学や技術の発展は人間に貢献してこそ意義がある。傲慢にならずに文化を発展させること、それこそがギリシャ精神」と話し、「核兵器政策を決めるにあたり、被爆者の経験こそが一番重要」と話して温かく迎えてくれた。

<u>ゾイ・コンスタントプロス国会議長とも面会。</u>国会議場で8名の被爆者、そして3名のユースが100名の国会議員と40名の学生に紹介された。代表して証言挨拶をした三宅さんは「核戦争が起きれば人類の破滅に至る。核兵器は1発でも多すぎる」と訴えた。国会生中継を含め、ギリシャの多くのメディアに掲載された。





5月15日 カタニア(イタリア)

活動都市:カタニア

発言者:伊藤正雄さん、岩本麻奈未さん/300名

エンゾー・ビアンコ市長の受け入れのもと、市役所で証言会と記者会見を実施。平和首長会議への加盟を依頼。スクオラ・ベスプッチ高校で300名の学生に証言。歌と音楽演奏での歓迎のお返しに、ユースによるウクレレの演奏に合わせて「ふるさと」を歌った。高校生に、被爆当時高校生だった人の話をすることで聞き手の興味と関心が高まった。西アフリカやアジアからの移民というイタリアのシチリア島特有の問題に引きつけた質疑応答があった。その中でも「自分のおかれた状況や祖国の政府を恨むことしかしてこなかったが、被爆者の話を聞いて『恨みからはなにも生まれない。理解し許すことから未来が広がる』と感じた」とのコメントがあった。

5月18日 モトリル(スペイン)

活動都市:モトリル

発言者:三田村シズ子さん、橋本昭博さん/350名

フランシスコ・ハビエル・デ・ブルゴス高校の受け入れのもと証言会を実施。前回訪問時に平和首長会議に加盟してくれたルイサ・マリア・ガルシア市長との面会も叶った。350名を越える学生と長崎ぶらぶら節を一緒に踊ることから証言会を開始。被爆者が差別された理由、米国への恨み、現在の日本の状況などの質問が出て、学生の関心の高さが伺われた。





5月20日 リスボン(ポルトガル)

活動都市:リスボン

発言者:森田博滿さん、鈴木慧南さん(証言会/20名)、廣中正樹さん(メディア対応)

リスボン市の受け入れのもと、小学生に向けて証言会を実施。被爆者による証言の前に、ユース鈴木さんよりポルトガルと長崎の特別な関係と原爆についての説明をし、証言後には会場の子どもたちに折り紙や日本の中学生からのメッセージカードを渡すなどして交流。

5月23日 ル・アーブル(フランス)

活動都市:ゴンフレヴィル・ロールシェ

発言者:小谷孝子さん、橋本昭博さん/80名

寄港したル・アーブル港から平和首長会議加盟都市であるゴンフレヴィール・ロールシェ市に移り、ジャン・ポール・ルコック同市市長とパリ郊外グリニ市のフィリップ・リオ市長の受け入れで、証言会と記者会見を実施。広島出身の俳優・東ちづるさんも証言交流会に同行。ユースによる原爆説明では、原爆瓦を見せて実際に学生に直接触れてもらった。原爆のことを学んだ若者が被爆者一人ずつにあてて掛けじくに描いた絵をプレゼントしてくれ、証言と



芸術での表現という工夫を学んだ。また、国際ユースサッカー試合でも証言挨拶をし、キックオフを宣言。

5月24日 ゼーブルージュ(ベルギー)

活動都市:ブルージュ

発言者:堀江 壯さん、岩本麻奈未さん/3名

フィリップ・ピエリンス副市長の受け入れのもと、証言会を実施。宗教的祝日だったため、規模の大きな証言会とはならなかったが、<u>第一次世界大戦で大きく傷ついた同市の歴史を学び、20世紀の愚かな大戦</u>に思いを馳せた。

5月27日 グダンスク(ポーランド)

活動都市:グダンスク

発言者:三宅信雄さん、岩本麻奈未さん/350名

ポーランドの民主化、そして旧東欧全土が大きく変化を遂げるきっかけとなった連帯運動発祥の地、グダンスク造船所に隣接する連帯センターで証言会を実施。350人の9歳~12歳の子どもに話すため、紙芝居をプロジェクターに映し出して証言をしたり、映像を使うなどの工夫をした。連帯運動がポーランド国内で沈静せずに、国際的な動きになった影には国際的な支援があったことを学び、核廃絶への動きも国際的な理解と協力が必要であることを実感した。

5月29日 ストックホルム(スウェーデン)

活動都市:ストックホルム

【グループ1: 高校での証言会】発言者: 森田 博滿さん(証言会/200名)

【グループ2:外務省訪問、高校での証言会】発言者: 鎌田弘恵さん、橋本昭博さん(証言会/80名) 2つのグループに分かれて活動を行った。グループ1は、ダンダーリド高校にて証言会。グループ2は、外務省の軍縮担当者と面会した。核の非人道性に関する「オーストリアの誓約」に賛同し核廃絶への具体的な一歩を進めてもらうことを、被爆者とユースから直接要請。広島を訪れたことがあるという担当者は面会した被爆者とユースの一人一人に経験と思いを尋ね、「みなさんの訴えを直接伺い、改めて核廃絶への思いを強くしました。」とのコメントをもらった。ディダクトゥス・リルイェホメン高校での証言会では、ユースが高校生に質問を投げかけるなど、対話形式で原爆について説明を加え、被爆者からは長期にわたる放射能の影響を説明した。

5月31日 サンクトペテルブルグ(ロシア)

活動都市: サンクトペテルブルグ

発言者:三田村シズ子さん、岩本麻奈未さん/50名

地元の NGO やジャーナリストと意見交換会を実施。ロシアの核政策や環境問題について、率直な意見交換が実現。レニングラード包囲網での犠牲者の墓地とアカデミカ・サハロヴァ公園の長崎の鐘を訪問し、献花。サンクトペテルブルグ市の受け入れで、国際協力協会にて日本語を学ぶ学生に向けて証言。ユース岩本さんによるピアノ演奏に続き、地元学生から日本語でロシアとサンクトペテルブルグの説明があった。日本語で「ふるさと」を歌ってくれたのには驚き、遠いロシアの地でふるさと日本を思い出し、涙した被爆者もいた。



6月1日 ヘルシンキ(フィンランド)

活動都市: ヘルシンキ

発言者:堀江 壯さん、鈴木慧南さん/15名

平和教育を行っているフィニッシュ・ピース・ユニオンにて証言と交流会を行った。現在原発を建設すべき か否かという議論が高まっているフィンランドだからこそ東日本大震災後の原発事故や今も直面している 放射能による長期的な影響について紹介。ワークショップをベースとした同ユニオンの、芝居やドラマを通して若者に社会問題に興味を持ってもらう取り組みを学んだ。被爆者やユースの中にも演劇やパペットを 使っての証言や継承を行っている者がおり、具体的な平和教育のカリキュラムや方法についての意見交換をする機会となった。

6月6日 ベルゲン(ノルウェー)

活動都市: ベルゲン

発言者: 小谷孝子さん、鈴木慧南さん/70名

ベルゲン市の真ん中にある公園で、ピースボート参加者グループによる和太鼓と南中ソーランのパフォーマンスが証言会の始まりと終わりを告げた。核の非人道性に関する「オーストリアの誓約」に賛同してくれるよう請願の手紙を市の職員に手渡した。ユースからは、無理だと言われていたクラスター爆弾禁止条約のイニシアティブをノルウェーが取ったことを上げ、「核兵器禁止条約ができないはずはない」と訴えました。また「この禁止条約への機運を高めることが、長い間被爆の影響で苦しんでいる被爆者に何にも変えがたい継承になる」と語った。

6月10日 レイキャビク(アイスランド)

活動都市: レイキャビク

発言者:廣中正樹さん、岩本麻奈未さん/30名

1986年に米ソ首脳が核廃絶を論じあった「レイキャビク会談」のあったホフディ・ハウスで証言会を実施。ここでは、核の非人道性に関する「オーストリアの誓約」に賛同してくれるよう請願の手紙をレイキャビク市長と在アイスランド日本大使に手渡した。原爆の構造や影響を説明する間、10歳未満の子どもたちは別室で折り紙などの交流をするなど、工夫をした。被爆証言は紙芝居を使ったものだったので、親子そろって聞いてもらった。証言の直後に自然に寄り添ったり抱き合ったりする親子の姿が印象的だった。





6月22日~23日 ラグアイラ(ベネズエラ)

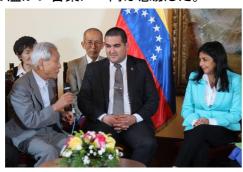
活動都市: ラグアイラ、カラカス

発言者:三宅信雄さん(証言会/80名)、廣中正樹さん(挨拶/30名)、伊藤正雄さん、鈴木慧南さん(証言会/180名)

ベネズエラ外務省受け入れのもと様々なイベントに参加し、核なき世界へのメッセージを届けた。22日、 <u>故チャベス大統領の霊廟を訪問</u>し、千羽鶴を届けた。同氏が目指した国家の形、国民から愛されて惜しまれている事実を学んだ。同日、カラカス市内で行われた平和式典では、<u>多くの外務省関係者に証言し、核</u> 廃絶に対する意識の高さを感じた。

翌23日、バルガス州政府が原爆投下70周年に平和を祈念して作成した壁画の除幕式に参加。州知事と外務副大臣から非核地帯の重要性が強調され、「被爆証言こそが核保有国を核廃絶に動かす原動力

になるはず」との力強い発言があった。音楽により社会変革をもたらしているエル・システマ本部では、貧困と暴力の道ではなく音楽を学ぶという道を選んだ若者たちによる演奏を聴き感銘を受けた。それに返すかたちで、ウクレレ演奏と「ふるさと」を歌って始めた証言会は、エルシステマの若者との心の通い合いを生んだ。文部大臣、外務大臣に面会し、直接核廃絶への取り組みを申し入れた。外務大臣から「これまでの人生、悲しみと痛み、憎しみの70年間だったのではないかと察します。そして人生をかけて二度と同じことがおこらないように尽力されてきたのでしょう。これからはベネズエラを頼ってください。全力で支えますから」との温かい言葉に一同は感激した。





6月26日 クリストバル(パナマ)

活動都市:パナマシティー

発言者: 森田 博滿さん、小谷孝子さん/約50名

かつて軍事基地であったが、今は企業・学術・科学・人道的協力体制にある国際的コミュニティーとなった知識の街で、ラテンアメリカの国連関連者に向けた証言会を実施。国連広報センターとの共催での証言会となり、広島・長崎原爆投下から70周年、ならびに国連創立70周年をを機に今一度平和への願いを共有する機会となった。

6月30日~7月1日 プエルトケツァル(グアテマラ)

活動都市: プエルトケツァル、アンティグア

発言者:小谷孝子さん、橋本昭博さん(プエルトケツァル証言会/30名)、廣中正樹さん(アンティグア証言会/100名)

被爆者とユースが直接相談して発想した「腹話術証言にスペイン語字幕をつける」ことを初めて実施。言語が複数になることで証言に思いを込めにくいという課題を克服。世界で証言をすることの難しさを感じると共に、新しい継承の形を模索する結果となった。



7月12日~13日 ホノルル(ハワイイ)

活動都市:ホノルル

発言者:堀江 壯さん、鈴木慧南さん(証言会/150名)、伊藤正雄さん(市長訪問)

12日、ハワイイの日系コミュニティーや被爆者、国連ハワイなどとの証言交流会が行われた。「オハナ・

アーツ」という日系の若者音楽グループが歌で歓迎してくれた。「多くの人々の苦しみを無駄にしないため、私たちは思いを翼に乗せて世界に訴え続けよう!」との歌詞に一同が涙した。その後の証言会では、ユースが船内での継承活動を報告し、若者の視点から継承の難しさや課題を共有。13日には、太平洋戦争の始まりとなったパールハーバーを訪問し、真珠湾攻撃について学ぶと共に太平洋戦争や原爆投下の事実について多角的に捉える機会となった。カーク・コールドウェル、ホノルル市長と面会し、同市と広島市の姉妹都市関係や交流を讃え、これからも人と人が繋がり交流することの大切さを確認。

【特別プログラム】

ベルギー特別プログラム

5月24日~27日

活動都市:ブルージュ、イーペル、ブリュッセル

発言者:廣中正樹さん(イーペル証言/約20名)、鎌田弘恵さん、鈴木慧南さん(ブリュッセル証言/約80名)

第一次世界大戦中にドイツがフランス軍に対して塩素ガスを使用したイーペルを訪問。世界で初めて毒ガスが兵器として使われたこの場所で、被爆証言への強い共感が感じられた。第一次世界大戦終了後から約90年間続いている、戦没者を悼む儀式にて献花。ブリュッセルでは、アハメド・エル・クティビ副市長の受け入れのもと証言会と記者会見を実施。NATO本部、EU議会のあるブリュッセルでは、証言の後の質疑応答も視野が広く、隣国との関係の保ち方や放射能による世代にまたがる影響について論じられた。





ドイツ特別プログラム-1

6月3日~4日

活動都市: ハンブルグ

発言者:伊藤正雄さん、三田村シズ子さん、三宅信雄さん

/参加人数:約100名

ハンブルグ市長の受け入れで証言会を実施。第二次世界 大戦中のハンブルグ空襲で破壊され、今は反戦の記念碑 となっている聖ニコライ教会において、同空襲の生存者3 名と直接の出会いが実現。両者の経験を共有し、そこか ら若い世代にどのように継承するかが議論された。ドイツ の若者も日本と同様、日々の学業や生活に追われ、歴史 から学び語り継いでいくことに高いハードルを感じているこ とがわかった。



ドイツ特別プログラム-2

6月3日~4日

活動都市:ベルリン

発言者:堀江 壯さん/参加人数:約80名

核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)とドイツ・ハインリッヒ・ベル財団の共催で開かれた、<u>核軍縮に関するセミナーに出席。</u>20代~70代の人々に被爆体験を証言し、生中継もされた。<u>原爆のことだけでなく、原発廃止を宣言しているドイツで、日本の原発問題についても問題提起した。</u>





【その他の寄港地】

リマソール(キプロス)/サントリー二島(ギリシャ)/クシャダシ(トルコ)/コペンハーゲン(デンマーク)/ ウィレムスタード(キュラソー)

- ●平和首長会議の原爆ポスターの届け先 (広島市長、長崎市市長からのレターも同時に贈呈)
- 1. インド(訪問日: 4月27日)
 - ・平和首長会議原爆ポスター(英語): コーチン市
 - ・広島市、長崎市市長レター: 同上
- 2. イタリア(訪問日: 5月15日)
 - ・平和首長会議原爆ポスター(英語): カタニア市
 - ・広島市、長崎市市長レター: 同上
- 3. ポルトガル(訪問日:5月20日)
 - ・平和首長会議原爆ポスター(英語): リスボン市
 - ・広島市、長崎市市長レター: 同上
- 4. フランス(訪問日:5月23日)
 - ・平和首長会議原爆ポスター(仏語): ゴンフレヴィル・ロールシェ市
 - ・広島市、長崎市市長レター: 同上
- 5. ベルギー(訪問日:5月24日)
 - ・平和首長会議原爆ポスター(蘭語): ブルージュ市
 - ・広島市、長崎市市長レター: 同上
- 6. ベルギー(訪問日:5月25日)
 - ・平和首長会議原爆ポスター(蘭語): イーペル市
 - ・広島市、長崎市市長レター: 同上
- 7. ベルギー(訪問日:5月26日)
 - ・平和首長会議原爆ポスター(仏語): ブリュッセル市
 - ・広島市、長崎市市長レター: 同上
- 8. ポーランド(訪問日:5月27日)
 - ・平和首長会議原爆ポスター(英語): グダンスク市
 - ・広島市、長崎市市長レター: 同上
- 9. ロシア(訪問日:5月31日)
 - 平和首長会議原爆ポスター(露語): サンクトペテルブルグ市
 - ・広島市、長崎市市長レター: 同上
- 10. ドイツ(訪問日:6月3日)
 - ・平和首長会議原爆ポスター(独語): ハンブルグ市
 - ・広島市、長崎市市長レター:同上
- 11. アイスランド(訪問日:6月10日)
 - ・平和首長会議原爆ポスター(英語): レイキャビク市
 - ・広島市、長崎市市長レター: 同上

●船内での活動

≪企画一覧≫

1. 原爆の被爆の実相を伝え理解を深める

証 言 会: 「おりづる証言会~生き残らされた命~」(4/19) しゃべり場: 「おりづるしゃべり場~証言を聞いて~」(4/19) 証 言 合: 「ギュの土切なれのいたの日の物語~」(4/25)

証 言 会: 「ボクの大切なもの~あの日の物語~」(4/25)

しゃべり場:「もっちゃんと話そう!」(4/25)

対 談:「未来の子どもたちへ、あの頃の子どもたちから」(5/5)

紙 芝 居:「紙しばいひろば~広島・長崎ストーリー~」(5/6)

ひろば:「おりづるひろば~紙芝居がはじまるよ!~」(5/10)

証 言 会: 「エル・システマメンバーへの証言会(クローズド)」(6/25)

証 言 会: 「英語スピーカーへ証言会(クローズド)」(7/9)

証 言 会: 「おりづる証言会 7つのストーリー あっちゃんママの家族」(7/20)

証 言 会: 「おりづる証言会 7つのストーリー 父子の別れ」(7/20)

証 言 会: 「おりづる証言会 7つのストーリー 今ふたたび被爆者を作らない為に」(7/20)

証 言 会: 「おりづる証言会 7つのストーリー 100分の1秒の奇跡」(7/20)

証 言 会: 「おりづる証言会 7つのストーリー 今いちばん気になること」(7/21)

証 言 会: 「おりづる証言会 7つのストーリー あと一歩遅れていたら」(7/21)

証 言 会:「おりづる証言会 7つのストーリー原爆と共に生きて~放射能の悪魔と闘った」 (7/21)

証 言 会: 「おりづる証言会 7つのストーリー まっさんと話そう」(7/21)

2. プロジェクトの意義や成果を一般参加者と共有する

紹介企画: 「未来につなぐ、おりづるプロジェクト」(4/15)

報 告 会: 「おりづる@寄港地~シンガポール編~」(4/23)

報告会: 「おりづる@寄港地~インド編~」(5/1)

発 表 会: 「おりづる発表会~未来へツナグ物語~」(5/10)

紹介企画: 「おりづるユースってどんな人?」(5/21)

上 映 会: 「おりづるドキュメンタリー フラッシュ・オブ・ホープ 上映会」(5/30)

報 告 会: 「おりづる@ヨーロッパ寄港地」(6/16)

報告会: 「おりづる@寄港地~ラテン・アメリカ編~」(7/5)

発表会: 「おりづるファイナルイベント 未来を紡ぐ物語」(7/21)

3. 戦争や被爆体験の継承について理解を深める

紙 芝 居:「子どもの日企画~みんなで遊ぼう!紙芝居タイム~」(5/5)

ひろば:「おりづるひろば~パートナー集まれ!~」(4/15)

ひろば:「おりづるメンバーと話そう!」(4/17)

上 映 会: 「舞台 Mobile2 上映会」(4/20)

対 談: 「おりづるラテラコヤの学び場~若者からヒバクシャに聞きたいこと~」(5/8)

しゃべり場: 「おりづるしゃべり場~キャスリンさんと何ができるか考えよう~」(6/9)

しゃべり場: 「おりづるしゃべり場~はだしのゲンを観て~」(6/21)

交 流 会: 「友達100人できるかな?①」(6/21)

ひろば: 「おりづるひろば~みらいかぞくを作ろう!~」(6/29)

交 流 会: 「友達100人できるかな?②」(6/29)

上 映 会: 「おりづるシネマ はだしのゲンを観よう!前編」(6/20)

上 映 会: 「おりづるシネマ はだしのゲンを観よう!後編」(6/21)

しゃべり場: 「おりづるしゃべり場~はだしのゲンを観て~」(6/21)

対 談: 「おりづる七夕 家族企画~し一ちゃんと平和~」(7/7)

イベント: 「七夕朗読会 ホシの子」(7/7)

イベント: 「七夕で長崎ぶらぶら節を踊ろう!」(7/7)

4. 原発を含めた核に関する問題や平和の問題について理解を深める

講 座: 「核はなくせるか」(4/16)

講 座: 「本当に核はなくせるの?」(4/17)

上映会:「おりづるシネマ~恋する資格、ありますか?~父と暮らせば上映会」(4/26)

講 座: 「はじめまして、憲法」(5/3)

ワークショップ: 「洋上テラコヤ 戦争体感ワークショップ」(5/4)

ワークショップ: 「レッツまぜこぜ!~生きづらさだよ全員集合~」(5/26)

レクチャー: 「さるく企画 わたしはわたしがえらぶ①~私がデモに行く理由~」(5/28)

レクチャー: 「さるく企画 わたしはわたしがえらぶ②~民主主義とは~」(5/30)

上 映 会: 「The Ultimate Wish(私の切なる願い)上映会」(6/5)

ワークショップ: 「教えて キャスリン・サリバン先生!」(6/8)

しゃべり場: 「おりづるしゃべり場~キャスリンさんと何ができるか考えよう~」(6/9)

講 演: 「キャスリン・サリバン活動紹介~Hibakusha Stories~」(6/9)

レクチャー: 「さるく企画 わたしはわたしがえらぶ③~核の民主主義~」(6/12) レクチャー: 「さるく企画 わたしはわたしがえらぶ④~私から見た特攻~」(6/28) レクチャー: 「さるく企画 わたしはわたしがえらぶ⑥~放射能ってなに?~」(6/29)

レクチャー: 「さるくガイド勉強会~広島編~」(7/4)

レクチャー:「サイレント・キラー~世界でヒバクシャが増えるワケ~」(7/5)

レクチャー: 「さるくガイド勉強会~長崎編~」(7/8)

上 映 会: 「日本と原発」特別上映会(7/17)









●詳細

ホームページ(日) http://peaceboat.org/projects/hibakusha

ホームページ(英) http://peaceboat.org/english/?page=view&nr=83&type=28&menu=105

ブログ(日) http://ameblo.jp/hibakushaglobal/